

本木昌造 132 回忌によせて

国際印刷大学校長、九州産業大学名誉教授 木下堯博

本木昌造顕彰会(内田信康会長)は本木昌造の墓所である大光寺で2007年9月3日、132回忌を開催した。著者は3年続けて、参加し、故本木昌造氏の功績をしのいだ。

ご焼香に続いて、本年はオランダ通詞の研究で筑波大学から博士号を取得した長崎歴史文化博物館の原田博二氏が本木昌造の生い立ちなどを話された。

また、出島にある長崎印刷会館の3階には小、中学生向けの活版印刷の体験学習の場とし、教育委員会と協力して運営されている。改修された出島とともに印刷文化に大いに貢献している。

著者は昨年、「**本木昌造と印刷博物館**」(1)と題した小論を発表したが、今回は2006年9月から2007年8月までの1年間の印刷史に関する活動記録を順次まとめた。

2003年5月の長崎県印刷工業組合総会で「世界の印刷博物館に関する調査研究(第2報)」(2)を報告したが、それに追加する資料制作のため、2006年9月30日、韓国の忠南市にある**韓国教科書博物館**を見学した。

この博物館は大韓教科書株式会社の敷地の一角にあり、広大な庭園にはハイデルの印刷機が置かれていて、野ざらしになっていた。館内は整然とまとまり、主として1950年代～1980年代に実際に用いられた教科書を展示していて、当時の教育内容が展示物より理解される。

この博物館では時代別に韓国の子供達に教育している様子など模型を使い、説明している。(写真1) これと同じくバーチャル博物館として立ち上げている「Cyber Textbook Museum」があり、韓国の世界遺産及びMemory of the Worldと印刷文化の関連を強調している。

2006年10月28日、松根格氏(本学客員教授)の「印刷史の中の西夏」(3)の出版記念パーティが大阪全日空ホテルで開催された。氏の西夏文字に関する研究は現地での調査を含め、精力的に活動されている。西夏文字の解読表の発見から文字の歴史的展開や中国の漢字の発達史に尽力されている。

井上靖著「敦煌」からブームになった西夏文字は西夏王朝(1032～1227年)の初代皇帝李元昊(リゲンコウ)の時代に制定された。蒙古に滅亡されてから、長い間この文字は未解読であったが、最近、西田龍雄氏により解読された。文字フォントに関し「インターネット西夏学会」が中心となり、True Type Fontで6000文字(ほぼ全数)がまとめられ、8、10.5、12、14各ポイントがリリースされて来た。このようにして、謎の西夏文字に関する研究解明がかなり進んできている。

印刷博物館の印刷の家は活版印刷を用いた実習が一般に開放されていて、指導員のもと活字、込物を用いステッキ上で組上げ、手フットで印刷をする創作活動が行われている。

この印刷博物館へ韓国の(株)斗山印刷からの研修団を2007年4月と6月に案内し、実際の作業を指導員のもとで行い作品を持ち帰ってもらった。研修団の一人は大変貴重な経

験をして、文字の印刷の根源を知ることが出来たと喜んでいました。また、東京書籍印刷㈱では別館で立てられている教科書図書館（東書文庫）も見学した。

㈱斗山印刷でも社内の1階に印刷博物館が設置されているが、常時開館はされておらず、また、学芸員組織が未確立であるため、今後の整備が期待される。（写真2）

2006年に大日本印刷㈱創立130周年を記念して開館した「DNP 五反田」は全館ショールームになっていて、オフィス空間自体をコミュニケーションチャネルとして活用している。（写真3）

1階はインフォパーク、超高精細映像シアター、ループルDNP、ミュージアムラボがあり、2007年8月1日にここの1階と3階にあるデュアルシーブラボ（年史や社史の編集）の見学と討論をおこなった。大日本印刷では本木昌造の書体である築地体から秀英体を開発し続け、100年以上も出版印刷分野で評価を受けてきた。現在、デジタルフォントを開発中であり、文字印刷の中心的存在であった大日本印刷はここにあった大崎工場から機械を外部に移転し、「DNP 五反田」として新しく25階建てを建築し、印刷コミュニケーションの場に様変わりを遂げていた。まさしく、活版の創始者である本木昌造の努力が実った「DNP 五反田」であった。改めて本木昌造の功績を讃えるものである。

（2007年9月3日、大光寺にて）

参考文献

- （1）木下堯博；本木昌造と印刷博物館（2006年9月1日）www.media-igu.com
- （2）木下堯博；長崎県印刷組合史、（1998年10月）
- （3）松根 格；印刷の周辺（2006年6月）



写真2、凸版印刷㈱ 印刷博物館前にて左は活版実習、右は玄関前㈱斗山印刷研修団、中央は筆者
（2007年6月30日、訪問）

写真は㈱斗山印刷張光学部長（筆者の右隣り）の好意により提供されたものである。

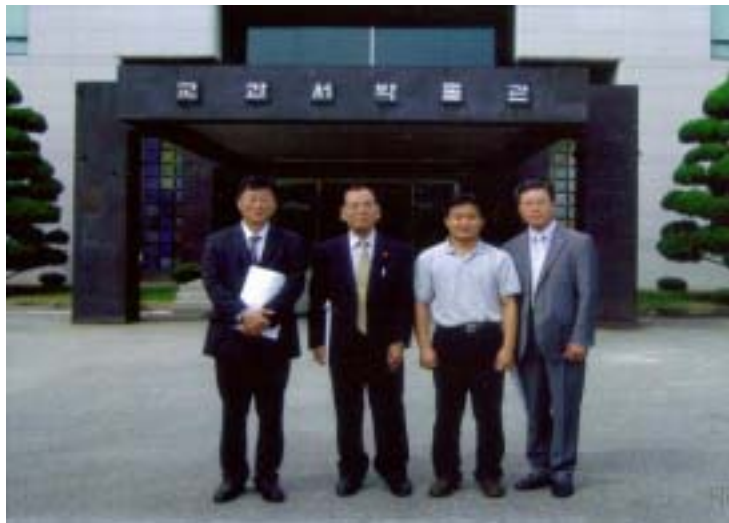


写真1、教科書博物館（韓国忠南市）正面玄関にて
（2006年9月30日訪問）

写真左から ㈱小森コーポレーション金東君氏、筆者、教科書博物館李学芸員、
㈱斗山印刷李 忠植次長



写真3 DNP 五反田の主たる見所（Gotanda ShowRoom の案内パンフレットから）